

井野口祐介選手 インタビュー「No Pain No Game / 更なる進化を求めて」

Q. 日本の Baseball Challenge League（プロ野球独立リーグ）では 2009 年に MVP も獲得、チームで試合に出場できるポジションや、親しんだ環境があるのにも関わらず、それらを捨て去って厳しいアメリカの環境で勝負しようと思ったのはなぜですか？

A. 日本の独立リーグではいくらサラリーをもらっても、いくら活躍しても自分にとってはあまり意味のないことでした。それは先（NPB や MLB）に行くための手段で、自分が知っている限りでは NPB に行って MLB というルートが自分の商品価値を上げていく最も良いルートと思ってプレーしてきました。その中で、NPB のドラフトにかからなかった時に自分の商品価値や、プレーヤーとしてのレベルを高めるためにはもっとレベルの高いリーグでプレーしたいと思いました。また、周りの選手から受ける刺激が少なかったので、環境を変えたいと思っていました。

Q. 今回カリフォルニア・ウィンターリーグ（スカウティングリーグ）に参加して、アメリカの独立リーグの一つである、アメリカンアソシエーションリーグに属するスーシティー・エクスプロラーズとの契約を勝ち取ったけども、契約はどのような経緯で？また実際にそこでプレーしてみて感じたことは？

A. そもそも日本のチームを辞めてきたので、アメリカでプレーできなかったら野球をやる場所がない状態を作って行っただけで、1 ヶ月間とにかく自分のベストを尽くしました。そして、シーズンの中盤に契約のオファーを頂き

ました。そして、実際にアメリカでプレーしてみて、うわさに聞いていた通りメジャー、3Aで活躍した良い選手もいて高いレベルのリーグだったし、アメリカで1シーズン通してプレーできたことで日本で噂されていたこととは違った、日本とアメリカの違いも良く分かりました。



Q. アメリカの Baseball と日本の野球を比べてみて一番違いを感じる部分はどこですか？また日本でプレーしてきたからこそアメリカでのプレーにおいて役に立った部分などがあれば教えてください。

A. 一番感じたのは、アメリカは全体的に打者のレベルが高く、長打力があります。日本でやってきたことで役に立ったことは、大きい観点から言うと適応能力です。日本では常に相手を研究して、それに対して自分を変えろということを経験されたので。その適応能力が野球とベースボールの間にあるギャップを埋めるのに役立ったと思います。また、日本で学んだ細かい技術が役に立つと思って渡米したのですが、そもそもそれを使う必要や場面があまりなかったですね。

Q. アメリカではマイナーリーグのことをハンバーガーリーグなんていうほどに食生活や移動などが大変だと言うけども、実際にこの辺は体験してみてどうだったですか？

A. 確かに待遇では決してすごく良い環境ではないかもしれませんが。例えばバスでの20時間移動なんかは新鮮だったし、食事に関してもハンバーガーやピーナッツバターとイチゴジャムのサンドも野球をやって食べていると思えば幸せでした。それはそれで楽しめて大変とは思わなかったのですが、改めて分かったことは日本食が大好きだということです。



Q. チームメイトたちや他のチームの選手から学んだことはありますか？ また日本語を使えない環境に行って何か感じることはありましたか？

A. たくさんあるけど主に3点です。よりシンプルに考えること、とにかく楽しむこと、そして英語。言いたい事が言えなかったり、うまく伝えられなかったりしたことはストレスだったりしましたが、そういった環境にいて自分で自分が成長できたと思います。そもそも言語は日本語だけじゃないですしね。

Q. 今シーズンの住居環境はどうだったのでしょうか？ またその住居環境はホームゲームとアウェーではどう違ったのでしょうか？

A. チームのファン、サポーターであるホストファミリーの家に滞在させてもらっていました。全 100 試合をホームとアウェーで 50 試合ずつだったので半分は遠征地のホテルで過ごしました。ホテルはチームメイトと 2 人部屋が基本でした。すべてのホテルにはジム、プール、ジャグジーがありましたしとても快適でした。



Q. 年間の試合スケジュールはどんな感じでしたか？また、日本のプロ野球や独立リーグよりもアメリカでは解雇が日常茶飯事だと思いますが、1シーズンでどれだけの選手が入れ変わったのでしょうか？

A. シーズン始まったら基本的に毎日試合で、平均したら月に3日くらい休みがある感じで4ヶ月弱をプレーします。30連戦というのもありました。うちの監督は入れ替えが好きではないタイプでしたが、それでも10人くらいは変わりました。他のチームは10～20人位の入れ代わりがある感じでしょうか。



Q. シーズンを生き残るのが難しいと言われているアメリカのプロ野球独立リーグの一つであるアメリカンアソシエーションリーグ（2Aレベル）でのシーズンを生き残りましたが、理由があれば教えてください。

A. 最初はリリースされる事も覚悟してしていたし、その恐れから今までにないストレスやプレッシャーも味わいました。でも頭を整理して、今できる事全てやってカットされたらしょうがないと思ってとにかく目の前の1試合に

ベストを尽くしてそれを続けて、100 試合までになったという感じです。意識したのはとにかく打率を 3 割以上で続けることでした。最終的には 3 割を切ってしまいましたが、シーズンを通してある程度できたと思います。それから監督、コーチ、GM にお土産としてお酒を買って持っていましたね。

Q. 監督は誰でしたか？監督さんはどんな baseball をするタイプですか？また監督とのコミュニケーションはどうしていましたか？

A. ツインズの 3A レベルで監督をしていたスタンクライバーンです。選手との信頼、そしてシーズンを見通したバランスの良い采配、選手の起用法そんなのをすごく感じました。細かく奇抜なことよりも、シンプルで基本的なことを重視する感じでした。コミュニケーションに関しては基本的には今までやってきたことをやれと言われていたし、ああしろこうしろというのは一切なかったし、野球をプレーする英語くらいは少し勉強していたので何とかできました。ただ今後はもっと深い話やミーティングの内容を完璧に聞きとれるようになる必要があると思います。



Q. 今シーズン一番印象に残っていることを教えてください。衝撃を受けた選手やプレー、また一番嬉しかったことなど思いつくことを教えてください。

A. アメリカでのプロ開幕戦ですね。やっぱりウィンターリーグでカリフォルニアに行った際とは違いました。お客さんもたくさんいましたし、球場の雰囲気も最高で本当に感動しました。衝撃を受けたのはやはりメジャーで何年か活躍していたようなバッターはものが違ったことです。外野から見ていて勉強になりました。うれしかったことは、やはりそういうレベルの高い選手たちと同じフィールドでプレーできたことです。

Q. 今シーズン一番つらく、大変だと思ったことはありますか？

A. 野球をやっていて辛いとか大変というのはないけど、アメリカの食事も好きですが、和食が食べたかったです。

Q. 最後になりますが、今シーズンを終えて自分が一番成長したと感じる点があれば教えてください。そして KOREKARA アメリカの野球に挑戦しようと思っている選手たちに一言お願いします。

A. 一番成長したのは間違いなくメンタルの部分だと思います。頭の整理の仕方ですね。それから、状況に応じたプレーは前よりも確実に意識できるようになりました。自分も今回プレーした事で感じたことはすごく多かったし、素晴らしい経験になりました。テレビで見る、人から聞く、そんなことよりも自分で行って肌で感じたことは間違いありませんから、チャンスがあるなら一人でも多くの選手にアメリカの野球を肌で感じてみてほしいです。

